

学校教育目標	共に生きる たくましく生きる かがやいて生きる 牛久保の子					
	[知] 自ら考え 学ぶことの意義や楽しさを感じて 主体的に学び続ける子					
	[徳] 自分や人を大切にし 思いやりの気持ちをつなげる子					
	[体] 粘り強く最後までやりぬく 心身ともにたくましい子					
	[公] 夢や目標をもち 地域や社会を考えて行動する子					
[開] 自分を見つめ 広い視野をもち多様性を尊重して共に生きる子						
学校概要	創立 18 周年	学校長	大河内 裕子	副校長	松井 康仁	2 学期制
	一般学級: 18	個別支援学級: 2	児童生徒数: 559 人			
主な関係校: 中川中学校 中川西中学校 中川小学校 南山田小学校						

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
「人・もの・こと」と豊かにかかわり合いながら主体的に学び続ける力 <コミュニケーション能力> <言語能力><持続力 たくましく> <問題解決能力>	中川中ブロック ・中川中 ・中川小 ・南山田小	自分も他者も大切にしながら、豊かな学び合いができる子 ○「よりよい人間関係を築くために必要な力」の育成のために、キャリア教育を充実させる。 ○「自ら考え、判断と行動できる力」や「主体的に学び続ける力」について検討し、その共有を図る。 ○特別支援教育に関する研修を行う。

中期取組目標	<p>◆子どもの「学び」の高まりと 自尊感情の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「人・もの・こと」との関わりを大切にし、学ぶことの意義や楽しさを感じる授業づくりを推進します。 ○一人ひとりの自己肯定感を高め、思いやりの心を育む児童支援の充実を図ります。 ○健康的な生活習慣の形成・健康な心身をつくる体力づくりの取組を継続します。 <p>◆子どもを真ん中にした『チーム牛久保』の協働推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭・地域・各関係機関等と連携し、子どもを真ん中にした「チーム牛久保」としての取組をすすめます。
---------------	---

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①学力・学習状況調査等の結果分析や学年グランドデザインに基づきカリキュラムマネジメントに取組む。 ②各教科等で児童の問題解決能力を育成する授業づくりに取組む。 ③低中高で目指す「聴く力」「話す力」の能力を設定し指導を行う。 ④朝学習を計画的に行い、基礎、基本の定着を図る問題や活用問題に取組む。
担当 教育課程研究評価	
豊かな心	①道徳の時間を通して自らを振り返り、よりよく生きようとする心を育む。 ②子どもが主体的に活動できる場面を設定する。フレンドチームなど異学年を意識した活動を行い、友達や相手を思いやる心を育成する。 ③牛久保のまちに目を向け、地域の方と関わり、体験的な活動を通して「本物」に触れ、豊かな感性を磨く。
担当 児童活動・生活環境	
健やかな体	①学校保健委員会を通して自分の心と体を見つめ、家庭とも連携し健康を意識した生活について考え取組む。②体力テストの結果を生かしながら、一校一実践として集会や体育の時間を活用し、「〇分間縄跳び」や「〇分間走」に取り組むことで個の持久力が高まる運動を継続的に行う。③食や体に対する関心を高めるために、給食時間や学級活動を活用し、栄養教諭と連携した食育の学習を継続して行う。
担当 児童活動・生活環境	
人権教育 児童指導	①人権週間の取組を系統的に行い、学習内容や気付きを紹介し合い、全校で人権への意識を高める。人権研修や資料を使って人権に関わる意識を高める。②月別生活目標・保健目標・給食目標をもとに全職員が共通した指導を行う。 ③挨拶運動を継続し「親子挨拶デー」など家庭とも連携して取組む。中川中ブロック「ベイフォワード」の取組を広げる。 ④児童指導に関わる諸問題に対し担任他、学年や専任、各関係機関等と連携を図り組織的に対応する。
担当 心豊かな生活環境部	
特別支援教育	①個別の支援計画、指導計画を基に個に応じた指導、支援を継続していく。 ②特別支援教室では、子どもの困り感に寄り添い、算数科、国語科の2教科の学習において基礎基本の習得を目指し、一人ひとりに応じた学習を実施する。 ③横浜型センターの機能を活用しコンサルテーションや通級訪問など、専門的な方の助言を受けての適切な指導や支援につなげていく。
担当 心豊かな生活環境部	
地域連携	①牛っこ応援団を通して、積極的に地域人材を学習に活用する。 ②学習したことを地域に発信をしていく。 ③児童の地域行事参加率を70%を目指す。
担当 生活・総合 推進委員会	
安全管理	①様々な状況を想定した避難訓練を通して、児童の防災・防犯意識を高める。 ②登下校指導や定期的な見回りを実施することで、児童への安全指導、地域の危険箇所の共通理解を図る。 ③PTAや学援隊などとの連携を図る。 ④安全点検・安全研修の実施(着衣泳、職員の学校安全研修など)。
担当 安全部	
未来を開く志	①生活科や総合的な学習の時間を中心に、「ひと・もの・こと」の出会いを大切に、SDGsを意識した活動に取組む。新たな単元を開発していく。 ②他者の意見や考えを尊重する資質を育てるために、各教科等において話し合い活動の充実を図る。
担当 生活・総合 推進委員会	
いじめへの対応	①いじめ未然防止を目指した取り組みを代表委員会や子ども会議を通して児童主体で話し合い、活動につなげる。 ②月1回学校生活アンケート・ハートフルウィークで教育相談実施。いじめの実態把握に取組む。③YPアセスメントを活用した児童理解研修を行う。「いじめ防止メソッド」「子どもの社会的スキル横浜プログラム」の計画的な取組。④他機関と連携した情報モラル教育を実施する。⑤いじめ防止のための研修を実施し教員のスキルアップを図る。
担当 人権児童指導 いじめ防止対策委員会	
人材育成・ 組織運営 (働き方改革)	①メンターチームでは、ミドルリーダーや主幹教員等もかかわり授業研究や学級経営等の指導力向上を図る研修を行う。②一部教科分担制など協働型指導を伴うチーム学年経営を実施し組織力向上とワークライフバランスを推進する。また学年研や三部会、UCL(共同研究)等で、ベテランの経験値や良さをひきつげるよう校内OJTを強化する③年間を通して計画的に研修を実施し、指導力向上を図る。④グループウェアの活用による情報の共有化「電子申請システム」を活用した事務の簡便化・効率化を図る。
担当 教務・メンター・研修	